

「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座 第1回」

中南地区：令和6年6月11日（火）弘前市総合学習センター 参加者10名

下北地区：令和6年6月21日（金）下北文化会館 参加者4名

1 内容

【講義】「本県の家庭教育を取り巻く現状と課題、
今後の家庭教育支援の在り方について」
県総合社会教育センター 教育活動支援課長

【講義】「家庭教育支援者の役割・心構え」
講師 特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・ハピたの
代表理事 中沢 洋子 氏



【経歴】

平成17年にNPO法人十和田NPO子どもセンター・「ハピたの」を立ち上げ、平成22年には、コミュニティカフェ「ハピたのカフェ」をオープン。カフェから～地域で子どもを育てる～を起点とし、子どもたちが、社会の中で自分らしく生きぬいていくための事業を展開している。

平成24年には、内閣府特命担当大臣表彰、「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」、平成25年には、青森県知事より「健康づくり」で奨励賞、あおもりコミュニティビジネス表彰・青森県知事賞を受賞されている。また、平成25年からは、8年間「青森県教育委員」も務めた。

【講義趣旨】

「本県の家庭教育を取り巻く現状と課題、今後の家庭教育支援の在り方について」

- ・核家族化やひとり親世帯が増加している中、子育ての悩みや不安を抱える家庭は、ひとり親世帯の方が割合が高い。また、相談・協力できる人が周りに少なく、親の学びの必要性を感じつつも、実際は、講座・研修会等への参加は少ない。
- ・今後の家庭教育支援の在り方として、親同士や地域とのつながりをつくる取組の推進、家庭教育支援者の育成、子育てを通じて地域がつながる環境づくり、家庭教育支援団体の継続的な運営が必要となってくる。

「家庭教育支援者の役割・心構え」

- ・家庭環境の複雑化で社会とつながりにくい子どもたちが増加。だからこそ、地域とのつながりが重要である。
- ・子どもとの関わりの中で、とことん子どもの話を聞くこと、子どもの力になること、子ども自身が素の自分でいられることが大切である。
- ・子どもたちがたくさん地域の大人たちと出会うことで「人とのかかわり」や「あたたかなつながり」を学ぶことができ、自ら考え、自ら判断し、責任をもって行動する、「社会で生きて働くための力」を身につけることができる。

2 受講者の感想

- ・子どもとの関わりの中で、とことん子どもの話を聞くこと、子どもの力になること、子ども自身が素の自分でいられることが大切だと学び、とても参考になった。
- ・中沢先生のお話ひとつひとつが心に響いた。何を目指して支援していくのか、人とのつながり、地域とのつながりの大切さについて、中沢先生の経験を基にたくさんお話を聞くことができ、勉強になった。
- ・大人でも子どもでも地域とのつながりが大切だと改めて感じた。自分自身も横のつながりを大事にし、つなげる役目という部分を考えていきたい。